

情報交流会

参加申込要項

開催目的	ITの旬のテーマに関する本質を講義形式で理解いただいた上で、参加者同士のグループ討議を通じてテーマに関する理解を深めるとともに、異業種交流を図っていただくことを目的に開催します。
活動の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> ・インプットして終わりではなく、議論を通じて自身のより深い理解につながる。 ・自身が学んだことを他者と共有することで、自身の理解度を客観的に把握できる。 ● 異業種交流 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野や立場の方と触れ合うことで、新しい視点を得られる。 ・ビジネスコミュニケーション実践の場として活用できる。
対象	部下をお持ちのマネージャーの方
内容	6月のメンバー募集時に、その時の「旬のテーマ」で設定します。 テーマ例：抵抗勢力の向き合い方 DXの本質と実践 人財育成、ウチはここがイケてる！
開催日程	年1~2回開催 募集要項の準備ができ次第ご案内します。
開催場所	東 京：アシスト市ヶ谷本社（千代田区九段北4-2-1 市ヶ谷スクエアビル） 名古屋：アシスト中日本支社（名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ 4F） 大 阪：アシスト西日本支社（大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワー A 13F）
募集人数	各地区30名程度 1社1名までの参加とさせていただきます。
参加費	無料
参加資格	アシストの取扱製品やサービスのプロダクト・サポート契約を締結されているお客様、および開発／販売パートナー様を対象とさせていただきます。



アシスト

アシストユーザー会

ソリューション研究会 | ご案内

2024



ソ研
コミュニティ
(SNS)

ソリューション研究会の3つの活動を支援するために、「ソ研コミュニティ」というSNSを用意しています。

- 分科会
(小グループによる1年間の研究活動)
- 情報交流会
(旬のITトピックに関する講義とグループ討議)
- コミュニティ
(リアルとバーチャル両方のネットワーキング)

活動終了後もネットワーキングや情報交換がゆるく長く続くよう、つながりたい、協力してほしい、情報が欲しいなどのメンバー同士の相互発信や、各種イベントやオフ会の企画、案内などに活用いただけます。



お問い合わせ

ご不明点やご質問などについては、参加をご検討されている地区の事務局までお気軽にお問い合わせください。

- 東日本地区 / TEL : 03-5276-5850 E-Mail : sol_web@ashisuto.co.jp
- 中日本地区 / TEL : 052-232-8211 E-Mail : sol_nagoya@ashisuto.co.jp
- 西日本地区 / TEL : 06-6373-7113 E-Mail : sol_osaka@ashisuto.co.jp

2023年度「成果発表会」のご案内

地区大会

全国大会

西日本：2024年2月2日（金）13:00-19:00
グランフロント大阪カンファレンスルーム

日時：2024年3月19日（火）14:30-19:00
会場：ソラリア西鉄ホテル（福岡）

東日本：2024年2月7日（水）13:00-19:00
アルカディア市ヶ谷

※開催時間は変更になる場合があります。

中日本：2024年2月8日（木）15:00-19:00
名古屋ガーデンパレス



超サポ
愉快カンパニー

アシスト

ソリューション研究会の3つの活動

アシストし合う場をつくる



参加メンバーによる
自主研究
分科会

共同研究・価値創造

2月～翌年2月 / 定例会毎月1回以上

10名前後の小グループによる一年間を通しての研究活動です。共通の課題や疑問点をテーマに、研究の進め方はメンバー自身で考えます。仲間同士で生み出したアイデアは成果物として「分科会発表会」で発表するとともに、集大成として「成果報告書」にもまとめます。

ネットワーキング・情報交換

いつでもSNSやオフ会で

活動中も活動終了後も、参加グループや年度・地区を超えてゆるく長くつながれるようネットワーキング・イベントや合同同窓会が企画されます。また「ソ研コミュニティ」というSNS上でも、メンバー発案のオフ会や勉強会のご案内、メンバー同士のヘルプ! 対応など「アシストし合う」を実感できます。

参加者同士の
ゆるく長くつながる活動
コミュニティ

知識習得・情報交換

8～10月

次世代のITリーダー候補が知るべきIT関連のトピックを「講義形式」で提供。参加者同士の「グループ討議」や「交流会」も実施します。他社の方と議論することで、業務では得られない気づきや知識を習得できたり、講義に対する自身の理解度を客観的に把握することができます。

講義に基づく
討議と交流
情報交流会

ごあいさつ

「ソリューション研究会」は、アシスト社の提供するソフトウェア製品やサービスを利用されているお客様を対象として、IT分野の経営課題や最新IT技術の利活用等をテーマに公募し、共同研究すること、ならびに会員相互の交流を育むことを目的とした1996年発足のアシストのお客様主体の「ユーザー会」です。

「ソリューション研究会」では、当会のビジョンを「参加者同士がアシストし合う場をつくる」と新たに定義し、互いに知恵を出し合い解決策を導くことを目指して活動しています。まだまだ先行きが見えない状況が続きますが、こんな時だからこそ、様々な業界からの参加メンバーとの真剣な議論から得られる刺激が貴重な体験となるはず。一年間の活動を通じてメンバー同士で切磋琢磨した暁には、達成感をもって戻られること間違いありません。ぜひ貴社からも奮ってご参加ください。



ソリューション研究会
会長 玉本 宏之

コニカミノルタ株式会社
経営企画本部
IT企画部グローバルCISOグループ
サブリーダー

企業向けパッケージソフトウェアの専門商社として創業以来、アシストは一貫してお客様の声に耳を傾けて事業を進めてきました。お客様先で共通して聞かれる「課題」について、「アシストだからできることは何か」を考える中で、お客様同士が「共同研究」できる場として発足させた「ソリューション研究会」は、その後20年以上にわたってお客様主体のユーザー会として発展してきました。

当会に参加すると、「世の中の動向を実感できる」、「メンバーが語る苦労や愚痴の中に、他では得ることができない現場で実践した生の情報があふれている」との評価もいただいています。

アシストは、社名の通り、「アシストし合う場」を提供しているだけですが、これからもお客様同士の絆を作るお手伝いできればと考えています。



株式会社アシスト
代表取締役社長 大塚 辰男

2024年度分科会 募集テーマ

活動期間 2024年2月～2025年2月
(全国大会参加の場合は3月未まで)

ここに書かれている研究概要や活動ポイントはあくまでも案で、実際の研究内容やどこに焦点を当てるかは分科会で決めていただきます。

開催地区 東 東日本地区(東京) 中 中日本地区(名古屋) 西 西日本地区(大阪)

カテゴリ	分科会テーマ	開催地区	開催概要	活動ポイント
経営	共創を通じた新ビジネス創出のプロセスを学ぶ ～共創DXケーススタディ編～	東 中 西	異文化・異業種の企業がタイアップし、最先端のIT技術を使ってビジネスモデルの改革につながる新サービスを生み出す、というようなことが夢ではなくなってきました。特にITに着目し、各社の強みとITを組み合わせるとどのような新サービスが生まれるのか、ケーススタディを研究し、共創DXを生み出すプロセスを導き出します。分科会活動の中で、参加企業同士または仮想企業の共創で新ビジネスを創造(想像)するのも面白いかもしれません。	<ul style="list-style-type: none"> 共創によるDXのケーススタディ 共創を成功させる企業の条件やポイント 新ビジネスの創出プロセスとは
育成	DX時代の人財戦略 ～デジタル人財という言葉の落とし穴～	東 中 西	DX実現のためにデジタル人財の育成に取り組む企業が多いものの、実態はデジタルスキルの習得に片寄っているのではないのでしょうか。またそのスキルを獲得しても発揮する場がないという声も聞かれます。一方、新たな価値創造(DX)にはゼロからの発想力やチャレンジ精神などのソフトスキルや業務を良く知るアナログ人財も重要です。この分科会では、DX実現のために必要な人物像を改めて考え、その育成方法を検討します。全社員がデジタル人財であるべきか、アナログ人財とデジタル人財の融合は?などを検討し、「DX実現に本当に必要な人財とは?」の答えを導き出します。	<ul style="list-style-type: none"> DX実現に必要な人物像の明確化 求められる人財の育成方法 リスクリングのためのスキルの可視化
組織	働き方改革から見た「コロナ禍の総括」 ～維持すること、変えること～	東 中 西	コロナ禍により、それ以前はまだ先と思われていたテレワークなどの働き方改革が一気に推し進められました。コロナはいわば非常事態でしたが、平時に戻りつつある今改めて、コロナ以前に戻すこと/今の状態を維持すること/ここからさらに変えていくことは何かを、特にITの利活用の側面から整理し、今後目指すべき「働き方改革」の姿を提示します。	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革から見たコロナ禍の功罪 戻すこと/維持すること/変えることの整理 働き方改革のあるべき姿とITの可能性
組織	DX推進のための組織のあり方 ～DX推進のための組織変革～	東 中 西	DX推進を担うデジタル人財の育成が各社の課題になっていますが、組織はこのままで良いのでしょうか。ビジネスの変革(DX)過程では、システム開発におけるアジャイルのようにトライアンドエラーを素早く回す必要があります。ではアジャイル型アプローチが可能な組織とはどのようなものなのでしょうか。企画・開発・製造などの一連のプロセス、さらにはユーザー部門、IT部門、ベンダーなどが一気通貫でDXを推進できるようにするためには、どのような組織への変革が必要でしょうか。本分科会ではDX推進を組織面から研究します。	<ul style="list-style-type: none"> 従来型組織とアジャイル型組織との違い アジャイル型組織の体制、役割、責任範囲 組織変革に必要なこと
組織	ベンダーフリーを目指して ～ベンダーロックインを打ち破れ～	東 中 西	ベンダーロックインはDX推進の足かせとなると言われています。この分科会では、ベンダーロックインから脱却するためにはどうすればいいのかを研究します。ベンダーに依存していることによる弊害、その依存はどこに原因があるのか、脱却する方法、および、ロックインを予防する方法を、参加企業および、各社の事例をもとに導き出します。	<ul style="list-style-type: none"> ベンダーロックインの弊害 ベンダーフリーになるためには ベンダーロックインを予防するためには
プロジェクト管理	PMBOK7の実践 ～PMBOK7を学んでアジャイル開発を推進しよう～	東 中 西	PMBOK第7版(PMBOK7)は、ウォーターフォールから「アジャイル型」プロジェクトに大きく舵を切ったと言われています。しかし、アジャイル開発が浸透しにくい日本ではまだまだ活用されていないのではないのでしょうか。本分科会では、PMBOK7をベースにアジャイル開発におけるプロジェクトマネジメントの体系を理解し、それを実践に移すためにはどうすべきかを考えます。不確実性の時代と言われる今こそ、王道のPMBOKを学び自社でアジャイル開発を推進してみたいかがでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> PMBOK7の理解、どう変わったか アジャイル開発のためにPMBOK7をどう適用するか PMBOK7の実践
情報活用	ビジネスに貢献するデータ活用 ～様々なビジネスシーンでの活用～	東 中 西	企業では生産状況の見える化や売上分析といった直接的な企業活動で得られるデータ以外にも、勤怠管理やEXと呼ばれる従業員体験/満足度など幅広いデータが蓄積されています。これら未活用のデータを活用することで、例えば従業員のウェルビーイング(健康や生活の向上)に役立つかもしれません。この分科会では、ビジネス上の様々なシーンにおけるデータ活用の研究を通じて、ビジネス貢献につなげるためのデータ活用の指針を考えます。	<ul style="list-style-type: none"> 企業で収集されているデータ ビジネスシーンにおけるデータ活用の例 ビジネスに貢献するデータ活用

カテゴリ	分科会テーマ	開催地区	開催概要	活動ポイント
AI	企業は生成AIをどう活用すべきか ～生成AIを使ったビジネス変革～	東 中 西	急速に進化する生成AI。チャットや文書生成以外にも、画像/動画生成、プレゼン資料作成、自動コーディングなど様々な新サービスが提供されています。ビジネス利用を見越して社内データを生成AIで活用する模索も始まっています。一方で著作権侵害や、社内データの無断利用や流出が問題になっています。生成AIの各種サービスの調査、利用事例、課題整理を通じて、企業で生成AIをどう活用していくべきか、生成AIの活用で企業がどう変わるかを探ります。	<ul style="list-style-type: none"> 生成AIサービスと事例の調査 生成AI活用の課題やガイドラインの検討 生成AIがビジネスに与える影響 <p>※生成AI有償版サービスを利用する場合の当会の予算は、各分科会の活動予算と同様、年間5万円です。</p>
セキュリティ	サイバー攻撃およびインシデント対策 ～DX推進の前に押さえるべき基本事項～	東 中 西	日本はサイバー攻撃の経験が少ないためか、セキュリティ分野での対応が遅れていると言われています。まずはサイバー攻撃を防ぐための基本的な対策を学ぶとともに、実際に攻撃された場合、いかに早くそれに気づき、どのような対策を取ればいいのかの基本事項を整理します。DX推進にもセキュリティ対策が不可欠と言われており、ユーザー部門の方も押さえておくべき基本事項です。	<ul style="list-style-type: none"> サイバー攻撃対策 サイバー攻撃者の心理を研究 インシデント対策
セキュリティ	SASEおよびSSEの研究 ～サイバーセキュリティ・フレームワーク～	東 中 西	企業の情報セキュリティで最近注目されているのが「SASE」(Secure Access Service Edge)や「SSE」(Secure Service Edge)です。ゼロトラストがセキュリティ全体に対する考え方なのに対し、ゼロトラストネットワークを実現するために、セキュリティ機能とネットワーク機能を1つのクラウドサービスに統合させるセキュリティフレームワークがSASEで、SASEのセキュリティ機能(CASBやSWGなどで構成)を担うのがSSEです。ゼロトラストから一歩具体化して、SASEやSSEのアーキテクチャやメリットを研究するとともに、従来のセキュリティ対策の違いや企業での活用を研究します。	<ul style="list-style-type: none"> SASE/SSEの生まれた背景 SASE/SSEのアーキテクチャやメリット 従来のセキュリティ対策との違いや活用方法
セキュリティ	サイバー攻撃手法の分析と企業対策 ～戦え! 情報システム部。敵を知り、己を知る～	東 中 西	企業や組織を狙うサイバー攻撃の手法は常に進化し、十分な対策を実施している企業でも次々と新たな被害が生まれています。本分科会ではサイバー攻撃の攻撃側から考え、様々な攻撃手法やビジネスモデルを学ぶとともに、その手法を熟知することで、企業が取るべきサイバー攻撃対策について研究します。	<ul style="list-style-type: none"> サイバー攻撃手法の分析 サイバー攻撃のビジネスモデル 企業の攻撃対策
システム開発	サーバーレス/マイクロサービスを利用した基幹システムの刷新 ～変化に強いシステムに生まれ変わるためには～	東 中 西	DX推進のためには、巨大なレガシー基幹システムを変化に強いシステムに刷新することが求められています。本分科会では、基幹システム刷新へのサーバーレス/マイクロサービス技術の適用やシステムの刷新手法について研究します。サーバーレス/マイクロサービス技術とは何か、なぜこれらの技術が求められているのかを学ぶところから始め、基幹システムの刷新にどう適用できるかを検討します。	<ul style="list-style-type: none"> サーバーレス/マイクロサービスとは 基幹システム刷新へ適用するための手法 サーバーレス/マイクロサービスで刷新する際の勘所
システム開発	ノーコード/ローコード時代のシステム開発 ～内製力を高めるために～	東 中 西	DX推進に向けたアジャイル開発のために、業務をよく知るユーザー部門による「ノーコード/ローコード開発」が本格化してきています。内製化が進む一方で、システム部門の管轄外で野放し状態での開発が行われるような問題も起きています。ユーザー部門によるノーコード/ローコードを使った開発を推進するにあたり、内製化のルールやガイドラインを策定することで、内製力の強化を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー部門による内製化に向けてのルール整備 ガバナンスの強化 内製力を高めるための施策検討
システム開発	システム開発自動化の未来 ～どこまで自動化できるか～	東 中 西	生成AIを利用した自動コーディング「Copilot」、テストスクリプトの生成、ドキュメント作成など、従来型のノーコード/ローコードツールだけでなく、システム開発を自動化するための仕組みや機能が、AIにより高度に発展してきています。これらの効果的な活用によって、システム開発はどこまで自動化できるのか。その未来像を探るとともに、自動化ツールの導入や自動化推進において気を付けるべきポイントを提示します。	<ul style="list-style-type: none"> 自動化ツールの現状(事例や適応分類) どこまで自動化できるか(未来像) 自動化において気を付けるべきポイント

話し合い、知恵を出し合い、解決策をみんなで考える一年間

研究活動を通じて知識や経験を積み、
自分を鍛える機会に

活動の目的と 特徴

各社が抱える、似たような課題・共通の悩みを、皆で知恵を出し合い、解決策を考えてみる。「ソリューション研究会・分科会」は、そういう場です。

<自由度の高さゆえ、参加者の主体性が求められます>

分科会のテーマとして掲げる課題は経営課題やIT全般にわたり、具体的な研究テーマの選定は参加メンバーの裁量にゆだねられています。その自由度の高さゆえの苦労と面白さも、分科会に参加することで得られる醍醐味です。

<多様な参加者との交流機会を得られます>

参加条件がゆるく、多様なバックグラウンド、異業種・異分野の人とともに取り組むという、自社内では得難い経験を積むこともできます。培った経験や能力の異なる人とのコミュニケーションの困難さに、困惑することすらも貴重な経験となるはずですよ。

参加を 検討いただく 上での注意点

- 分科会への「参加申込」には、申込責任者（上長）のお名前の記入が必要になります。
- 定例ミーティング参加と宿題準備などで、月に最低1.5人日の工数がかかります。責任者による業務量調整の上、年間の研究工数を確保した上でお申し込みください。（開催頻度や宿題の有無は分科会毎に設定され、分科会後半では開催頻度が増える傾向があります。）
- 1分科会に申し込める人数は、原則1社1名とさせていただきます。
- 対面開催のイベントや会議へご参加いただく際の移動費はお客様負担となります。

参加検討中の方へ ▶ これまでの分科会活動の紹介

〈成果報告書〉

過去の分科会活動でまとめられた「成果報告書」を公開していますのでご覧ください。

<https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups/#c06>

※成果報告書はアシストのユーザー各社にのみ公開しています。

※閲覧にはパスワードが必要になります。パスワード（全て半角英字）：soldoc

〈活動紹介／ソリューション研究会だより〉

分科会の様子や各イベントの開催報告をホームページ上で公開しています。

<https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/soken-reports/>

研究活動のサポート

✓ ワークショップ

分科会参加者全員に、一年間のグループ研究をスムーズに進めるために必要な「ビジネススキル」をワークショップ形式で学んでいただきます。

テーマ（例）：

- ・プロジェクト管理の基礎
- ・会議ファシリテーション 実践トレーニング
- ・「文章力大全」報告書の書き方
- ・相手を動かすプレゼンテーション講座



✓ 幹事アドバイス

ソリューション研究会幹事（お客様代表）が分科会のアドバイザーとして、一年間の活動期間中、3～4回、進捗を細かくフォローします。



「分科会進捗報告会」

研究内容が設定した研究テーマとあっているか、進め方に無理がないか、主張に矛盾がないかなど、数々のプロジェクト推進経験があり、またご自身も分科会の参加経験があるアドバイザーが客観的にアドバイスをします。

「分科会発表会リハーサル」

ソリューション研究会幹事向けに、本番同様のプレゼンテーションを行っていただきます。発表のシナリオ、資料の作り方等について、改善点を指摘します。

評価と表彰

「成果報告書」と「プレゼンテーション」をもとに地区代表を決め、年度末の「全国大会」でそれぞれの全国一位を表彰します。全国一位に選出された分科会には、情報処理学会「学会誌」への論文の採録、および、学会イベントでの発表機会が与えられます。



✓ 成果報告書の評価ポイント

- ・研究内容の深堀り度
- ・合理性、説得力
- ・独自性
- ・貢献度、有効性
- ・表現力

✓ プレゼンテーションの評価ポイント

- ・内容の有用性
- ・ストーリーに筋が通っているか
- ・伝える情熱
- ・プレゼン力

一年間の活動スケジュール例（プロジェクト型学習）

工程 構想・企画 → 実行 → 運用



実録！分科会レポート | 分科会活動の一年間ダイジェスト



発足会はほぼ自己紹介だけに終わるところも。それぞれの意気込みや希望テーマを語ってもらった後、リーダーとサブリーダーを自薦他薦で選出。最初に定例会合の日程を年間分決めたと、毎回、次々回までの開催場所と会議室を確保するとともに、会の運営ルールも全員で確認。



時代に見合った開発手法・ツールの提言だったり、RPA導入課題解決のためのガイドライン作成など、研究テーマの絞り込みが行われていることが重要。調査内容によってグループ分けしてタスクとスケジュールを見える化、最終ゴールは「全国大会で最優秀賞を取る」などに設定。



毎回、終了条件を明確にしてから議論を開始。発言内容はホワイトボードやマインドマップで見える化。各種フレームワークを使って蓄積された成果を整理。事例研究やインタビュー、新ツール活用などで分科会の主張を裏付けして報告書やプレゼン内容にまとめます。



分科会としての主張をどう伝えるのか、成果報告書として文書での提出と、プレゼンテーションが求められます。文書に書いてあることをそのままプレゼンするのはプレゼンの意味がありません。分科会として何をどう伝えたいのか議論して、最適なプレゼン方法を検討します。

参加者の声



「研究内容から自分たちで作っていく」というソ研のやり方が好き

田中 佑治 様
愛知県経済農業協同組合連合会
2022年 中日本地区
「ノーコード/ローコード開発と適用方針」
分科会メンバー

ノーコード/ローコードシステムの増加を受け、自社での推進の必要性を感じ分科会に参加しました。他社の方と深く議論することで多角的な視野を得られました。1年間の活動を通じてメンバーとの関係も密になり、継続して相談できる人間関係が構築できたのは1年間やり切った成果だと思います。私は、「題材は決まっているものの研究内容から自分たちで作っていく」というソ研のやり方が好きです。自社や自身の課題を盛り込みながら研究に取り込むことができました。またシステム課題の解決だけでなく資料の作成、プレゼンなどシステム部門として必要なスキルを体得しました。思考の枠を広げたいと感じたらまた参加したいと思えます。

「ノーコード/ローコード開発
スタートガイド」を作成



参加者の声



全員で共有・共感できる「共通善」を設定

服部 克征 様
株式会社デンソーテン
2021年 西日本地区「見えないデータ活用」
分科会リーダー

今回は全国大会出場をあと一歩で逃し、非常に悔しい思いをしたので今回は絶対にリベンジするぞ!という熱い想いを胸にリーダーに立候補しました。リーダーとしてチームをまとめ、成果を挙げるためにはどう振る舞えば良いかを身をもって学ばせていただきました。正論ばかりではメンバーはついて来ず、全員が共通の目的に向かって進んで行けるようにするための「共通善」を設定する、そのために個人の意見を尊重することが非常に重要だと感じました。またメンバーを信頼する、仕事を任せるといった基本的なことも改めて学びました。分科会は、日常の業務で数年かかって体験するようなことが1年間で体験できるため、自己の成長に非常に有益だと思います。

バリューグラフを利用して
共通善を導きました。



参加者の声

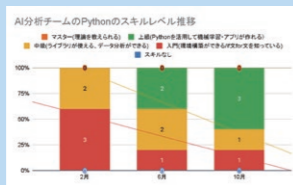


「困難は群れて分け合え」の精神で楽しくやりきることができた

戸高 亮 様
アース製薬株式会社
2021年 東・中日本地区合同
「参加企業に活かせるAIプログラミング」
分科会リーダー

初参加でリーダーという立場をやらせていただき、コンピュータ技術だけではなくコモンスキルも得られたと思います。年齢、背景、参加動機など全てが異なるメンバーたちが集まり、相談や議論をしながら進む道を決めていくプロセスは難しくも、普段の業務だけでは得難い体験と学びがありました。1年間の活動も大変満足のいく結果が得られますが、それらを体験だけに終わらせず、論文とプレゼンテーションで発表するというアウトプットによって、さらに質の高い学習に繋がったと思います。難しいことも多い研究活動ですが「困難は群れて分け合え」の精神で楽しくやりきることができました。

AI分析チームのPythonの
スキルレベルの推移



上司の声



自ら体験後、部下に推薦。考え方に幅と奥行きができる

松浦 潤 様
象印マホービン株式会社
2017年 西日本地区「待ちのITから攻めのITへ」
分科会リーダー

当社から初めて「分科会」に私が参加したのは2017年。以来、メンバーにも推薦。強制せずともほぼすべてのメンバーが参加しています。私が推薦するのは、一度組織に属してしまうと、年齢や性別・経験・所属組織や考え方が異なる人達と一年間一つのテーマについて真剣に議論し合うことは、なかなか得られない機会であるからです。そうした場には自ら飛び込む勇気が必要です。積極的に取り組むメンバーは、客観的な目線を持ち、考え方に幅と奥行きができてきます。上司としては多くを望まず、業務へのフィードバックがなくても、参加した本人が何かを感じ、今後の糧(人間関係含めて)になるものを得てもらえれば良いと思っています。

夜遅くまで分科会メンバーと
噂々々と議論しました。



分科会

参加申込要項・活動要領

参加申込要項

申込方法	下記 URL からお申し込みください。 https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/
募集人数	1分科会あたり、5名~12名まで 同じ分科会には1社1名の参加とさせていただきます。 ※参加申込は先着順で受け付けます。12名を超えた場合は、他の分科会への参加をご検討いただくことがあります。
発足条件	5名以上の参加申込があること。 申込人数が5名に満たない場合は、その分科会は発足されないことがあります。 分科会の成立/不成立は2月初旬にご連絡します。
参加費	無料、ただし会議やイベント参加のための移動費等はお客様負担となります。
参加資格	・アシストの取扱製品のサポート契約を締結されているお客様、開発/販売パートナー様 ・参加テーマに興味があり他のメンバーと協力して研究活動を行っていただける方 ※入会后、一度も参加されない場合、もしくは出席率が半分に満たない場合は退会いただくことがあります。
申込締切	一次締切 2024年1月26日(金) → 二次締切 2024年2月15日(木) ※5名以上申込がない分科会は発足見送り
発足会	2024年：東日本 2月27日(火) / 西日本 2月22日(木) / 中日本 3月1日(金)
退会条件	何等かの理由により退会される場合は、所定の退会届の提出をお願いします。

分科会活動要領

開催目的	分科会活動は、情報システムや情報技術全般にわたる話題を取り上げ、参加メンバーが直面する共通の課題や悩みについて自主研究するとともに、メンバー間の交流を図る場とする。
研究期間	2024年2月~2025年2月上旬(全国大会参加の場合は3月末まで)
運営体制	1. 各分科会は、リーダーおよびサブリーダーを定めリーダーのもとで活動を行う。サブリーダーは、リーダーを補佐する。 2. 定例会合は、原則として月に1回以上開催し、毎年3月より1年間継続する。 3. 会場は、分科会チーム内で定める。 4. 開催通知および出欠の確認は、リーダーの責任のもとで行う。 5. 活動の議事録は書記が作成し、開催後、速やかに分科会全メンバー(欠席者も含む)、事務局へ送付する。議事録のオリジナルは、毎回リーダーの責任のもとで保管する。 6. 分科会発表会での発表、および成果報告書の提出は、原則として、全ての分科会が行う。
開催頻度	定例会合は、原則、月1回以上(3~6時間)、9~17時に開催(発足会、ワークショップ、報告会などは含みません)。
開催場所	東京、大阪、名古屋。リモート参加も可能ですが、発足会、発表会他、分科会の指定があった場合は対面でご参加ください。
コミュニケーション・ツール	分科会メンバーのコミュニケーションを促進するために、以下5つのツールを利用します。 ● メールिंगリスト ● オンライン共同編集ツール (Google Workspace) ● テレビ会議ツール (Zoom) ● ソ研コミュニティ用掲示板 (Bettermode) ● オンラインホワイトボード (Strap) 分科会に参加される方は発足時に利用できるよう、上記ツールのインターネット接続等の社内利用申請を事前をお願いします。
成果物の著作権	研究成果である発表資料、成果報告書、出版物などの著作権や著作料は株式会社アシスト(ソリューション研究会)に帰属します。